

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 2月 23日

【評価実施概要】

事業所番号	0174700807		
法人名	株式会社アルムシステム		
事業所名	グループホーム北札内ふれあい館 1, 2		
所在地	〒089-0533 北海道中川郡幕別町札内新北町 7 7-5 (電話) 0155-55-6650		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北 2 条西 7 丁目 1 番地		
訪問調査日	平成20年11月14日	評価確定日	平成21年2月23日

【情報提供票より】 (平成 20 年 10 月 20 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 (平成) 14 年 12 月 20 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 13人, 非常勤 4人, 常勤換算	15.1人

(2) 建物概要

建物構造	木 造り	
	2 階建ての	1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000~52,000 円	その他の経費(月額)	24,000~29,300 円	
敷 金	有 (円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (19,950 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		700 円	

(4) 利用者の概要 (11月12日現在)

利用者人数	17 名	男性	1 名	女性	16 名	
要介護 1	11 名	要介護 2	3 名			
要介護 3	2 名	要介護 4	1 名			
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名			
年齢	平均	84 歳	最低	80 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	十勝の杜病院、みずほ通り 歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、開設以来約 6 年が経過しており、理念に向けた事業運営を着実に実施している。ユニット毎のホーム長は、認知症高齢者介護についての高い理想を持ち、日々サービスの質の向上に向け取り組んでいる。また、前年度評価での課題については、事業所における重点的取り組み事項のひとつとして、素早く改善に取り組んでおり、地域との関わりは昨年より充実させ、シニア村的発想の下での交流は、地域住民からも注目されている。また、利用者への職員担当制を採り、個々の情報を素早くかつ適切に集約し、利用者本位の介護計画等に反映させている。同法人の他事業所の天然温泉やパークゴルフ場の利用が可能であり、入居者は、悠々自適に生活している。全職員は日々向上心を持ってケアにあたり、開設以来サービスも徐々に充実しており、今後も引き続きサービスの質の向上が期待できる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回評価での更なる改善課題については、調査後に職員で改善に向けた話し合いを行って、具体的な取り組みをしており、今回調査時においては既に改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	管理者と職員は、自己評価を運営の問題点を明確にする機会と考えながら、共同で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	定期的に運営推進会議を実施するとともに、会議録等を整備している。会議では、事業所における取り組みや行事、防災訓練等の実施へ向けての参加・協力の依頼等を行うとともに、より運営を担う当事者に近い立場で事業所に関わりを持てるように、活発な意見交換を実施している。また、自己評価、外部評価の内容などについても公開し、第三者からの意見を聴取し、運営に反映するよう取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	家族へは、主に郵便物や広報誌により、定期的に利用者の生活の様子等の情報提供を行っている。また、事業所運営や利用者への介護サービスに関する意見等は、介護計画作成時のカンファレンス等や面会時に、積極的に家族に声かけを行うなどして、気軽に表出できるように対応している。苦情相談窓口を各種書面で明確にし、対応が可能であることを家族等に周知している。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	町内会、民生委員、町職員、社会福祉協議会など、地域と自然体で日常的に交流を行っている。当事業所が建つ敷地には、同法人の高齢者シニアマンションや通所介護事業所が併設されており、高齢者の交流する環境としての社会的注目度も高く、今後も継続して地域住民の協力や理解を得るよう取り組むことが期待される。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当事業所は、高齢者シニアマンション、通所介護事業所を併設しており、相互に協力しながら、その人らしく生活ができるようにとの理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の業務の中で、理念に沿った取り組みを実践しており、職員は理念達成に向けて日々努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会行事などを通じて、日常的に地域と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年自己評価を行っており、改善項目等を振り返りなど、積極的にサービスの質が向上するように取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を開催するとともに、会議録などを整備している。また、運営推進委員は、事業所の行事や防災訓練等に参加するなど、事業所運営に積極的に関わっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域ケア会議に参加しており、行政関係職員、同業者等と、積極的に情報交換などを行い、相互の向上に向けて努力している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	1ヶ月に1度、それぞれの家族に手紙を郵送して、利用者一人ひとりの生活の様子を伝えている。また、金銭管理の台帳や領収書なども、定期的に郵送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	主に家族の面会時や介護計画見直し時のカンファレンスなどを通じて、家族が意見を表出できるように対応している。また、苦情解決担当窓口を関連書類等に明示しており、意見・苦情を運営に反映するシステムを構築している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や退・入職などがある場合は、ホーム長が対応指導等を実施するなど、利用者に影響がないように配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加については順番制とし、なるべく多くの職員が参加できるように対応している。また、事業所内研修会も積極的に開催し、身体拘束や高齢者虐待等について学習している。研修後は、職員会議にて内容を報告するとともに、研修資料等は常時閲覧可能にして各自が学習できるよう配慮している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の介護保険事業所等と連携を図っており、地域ケア会議等を活用して、事業所相互に交流をより活性化させようと努力している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始にあたり、利用者の自宅訪問などを行い、信頼関係や馴染みの関係を形成してから利用開始となるように対応している。また、家族と話し合いを行い、利用者の状態によっては、環境に適應するまでの間、家族の宿泊や面会を多くするなどの配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日ごろからのコミュニケーションを通し、職員は利用者の状態に配慮しながら、職員と利用者が共に支えあう関係づくりに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりが意向、思いや希望を、できる限り表出できるように支援している。意思の表出が困難な場合は、利用者家族の意向を聞き取り、サービスの場面に反映させている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員を中心に、全職員で利用者の情報を収集し、カンファレンスで話し合いを行っている。カンファレンスでは、積極的に利用者、家族からも意見が出るように働きかけを行っており、ケアプラン以外の運営に関する意見交換の場としても活用している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に介護計画の見直しを実施している。利用者の状況把握を適切に行っており、利用者の状況に即し、かつ詳細に渡る介護計画となっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同敷地内には、高齢者シニアマンションや通所介護事業所を併設しており、事業所周辺は同世代の高齢者が多数生活している環境の中、各事業所相互に共生、協力して多機能性を発揮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が利用開始後も、かかりつけ医に受診できるよう支援している。また、協力医療機関へも、家族、利用者の希望等や必要に応じて、随時受診が可能である。また現在は、事業所内に医療職が在籍しており、日常的に健康管理等を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に向けた説明を、利用開始の際に文書により行っている。利用者の状態が変化した場合等は、その都度家族に状況を説明するとともに、状況、病態に応じて家族意向を確認しながら対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄や入浴に際して、個人のプライドを尊重した声かけや対応を行っている。個人情報の取り扱いについては、マニュアルに沿って対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本人が、利用開始前から実施している日課などを、継続できるように支援している。また、趣味活動を、自室や共用スペースで行うなど、利用者一人ひとりが思いのままに生活できるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に基いて食事の提供を行っているが、近隣住民等から差し入れがあった場合には、鮮度の良い食材を用いて献立を変更するなど、工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望や体調などを考慮しながら、利用者一人当たり週3回程度の入浴を支援している。また、併設事業所の天然温泉を利用でき、利用者の入浴への動機づけに活用している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	フェイスシートには利用開始以前の暮らしや、生活歴等を記載しており、これらの情報をもとに、事業所内における暮らしが利用者本人らしくなるように活用している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣への散歩のほか、隣接するパークゴルフ場、夏季に営業している野菜販売所などへ、利用者の希望により外出が可能である。また、事業所周辺に畑や花畑等もあり、作物や植物の世話をしに外に出ている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	近隣住民や民生委員等の訪問が日常的にあり、来訪に対応できるよう、夜間を除き常に開錠しており、自由に出入りができる。夜間施錠中については、インターホンを利用し、面会等の対応を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、防災訓練を町内会等の協力、参加により実施している。消防署主催の救急救命についての講習会参加等の実績があるなど、防災に向けて積極的に取り組んでいる。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事、水分摂取状況に関する記録をしている。体重測定を定期的に行い、法人内栄養士と情報交換し、主治医からの食事指導等を受けながら、適切な支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには自然光が降り注ぎ、明るく穏やかな雰囲気である。事業所内の随所に、利用者が持ち込んだ植木鉢等を置き、家庭的な空間づくりの工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	火気等の危険物以外は、愛用している品々を利用者や家族が思い思いに持ち寄っており、馴染みの生活環境を整備している。		

※  は、重点項目。